

第13回「日本語大賞」

テーマ「 」に伝えたい言葉

高校生の部 優秀賞 受賞作品

人生は涙

東京都
吉祥女子高等学校
一年 木村 春香

特定非営利活動法人 日本語検定委員会

「泣けばいいってものではないよ。」

これは、私の人生を変えてくださった恩師の先生が、嘘泣きをした他の生徒に発した言葉です。その言葉は、私にも響きました。なぜなら、私はよく泣いていたからです。人にうまく伝えられなくて泣く、悔しくて、悲しくて、辛くて泣く、嬉しくて泣く、感動して泣く、人の流す涙は色々な種類があります。でも、よく泣いていた私には自分のことのように感じられ、この言葉がすごく刺さったのを覚えています。

この話だけを聞くと、その先生は冷淡に見えるかもしれませんが、でも、その先生は、時にとっても厳しいですが、とても熱く、人のことをよく見ていてくれる先生でした。先生は、国語の先生なのですが、よく小テストの度に、計算ミスが異常に多い私の所へ来て「ここも、ここも、ケアレス」と、間違ったところを見てくださいました。当時は、自分もわかっているのになぜか増えてしまうミスに自分も腹立たしく思い、「どうしてわざわざ見に来るのだろう」と思っていました。でも、その先生は他の先生に言うてくださったっていました。「見かけでは全くわからないけれど、本当は真面目で、人に隠れて努力している。計算ミスや誤字が多いので、結果も見えづらいいけれど本当はもつと伸びていいはずだ」と。でもその先生との別れは突然でした。突然、異動されました。結果的に最後に先生にいただいた言葉は「あなたはこのびのびとしているところが、とても大きな長所です、これからもそういう感性を忘れないで、頑張っていきなさい」という言葉でした。先生も計算ミスがとでも多かつたそうです。先生の言葉を思い出して、泣きました。このまま一生分、涙が枯れてしまいそうでした。「泣けばいいってものではないよ」と言われる気がして、もつと涙が出てきました。どうして泣いているのかわからないけれど、涙が止まりませんでした。

でも、いつしか涙は止まりました。すっかり生きないとまた会ったときに恥ずかしい、そう思えるようになりました。何度も、挫折や苦悩、そして失敗を繰り返して、どうしたらいいのかわからなくなりました。そのたびに浮かんでくるのは「泣けばいいってものではないよ」という言葉で、先生に渴を入れられる気がして、頑張らなきゃ、と奮闘していました。

そうこうしているうちに、私はまた人生を変えられてしまいました。私と正反対の先生と出会ったのです。その先生は、面倒くさいと思ったことは、面倒くさそうにやっていらつしやる方だな、と失礼ながらに感じました。私とも、私の恩師とも、全く違うタイプだなと思えました。その先生に相談しても、面倒くさい、とあしらわれるのではないかと思い、相談しづらく思っていました。ところがある時、ふとしたことで私は何かが壊れてしまい、自分ではどうしようもなくなっていました。その時、真っ先に話を聞いてくださったのはその先生でした。そして私に、

「頑張りすぎているよ、私みたいにもつと気楽に生きてみな。」
と言ってくくださったのでした。私の周りに、そのような言葉をかけてくださる方は初めてで、唯一だったので、新鮮で仕方ありませんでした。でも、その言葉をかけてくださったおかげで、楽になりました。

その時、「あなたはあなたの感性を大切にいきなさい」という恩師の言葉を思い出しました。その恩師の先生は、決して「泣けばいいってものではない」と私に対しておっしゃっていた

わけではなかったことに気が付いてしまいました。私がこの時感じたのは、涙の味と涙の匂いでした。

私がかこにきて、伝えたいのは、頑張りすぎないことと、素直に頑張ることです。この二つは正反対です。ですから、大矛盾です。でも、それが人生かもしれない。明日、もしこの命が途絶えるとした時に、後悔しないくらい、一日一日を大切に生きることが大切だと思います。しかしそれとは反対に、早く死にたくない、もつと生きたい、と思えるくらい、自分の人生を楽しむことも大切ではないかと思えます。

動物も、人間も、人間が作った製造物もすべて寿命が存在します。この世に本当の意味での永遠は存在しません。だから人は涙を流します。永遠があつたら、今すぐに何かを達成する必要もなく、何かを失うこともなく、何かに対して悲しむことも少なくなるのではないかと思います。でもそれと同時に、感動したり、嬉しくなったりするのは、この世のあらゆる局面があります。この限りある人生を楽しむのも、悲しむのも、悔しがるのも、自分自身です。表すか表さないかは別として、自分の素直な感情も、人と関わる中で新たに生まれる感情も大切に、時にのびのびと泣き、時に泣かずに、生きていこうと思えます。もし、もう一度あの恩師の先生に会えるのなら、そう伝えたいと思えます。